

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1471901254
法人名	特定非営利活動法人 優游の朋
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ
訪問調査日	令和7年3月27日
評価確定日	令和7年4月24日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

#### ○項目番号について

外部評価は23項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和6年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471901254	事業の開始年月日	平成14年2月1日	
		指定年月日	平成14年2月1日	
法人名	特定非営利活動法人 優游の朋			
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ			
所在地	〒239-0843 横須賀市津久井2-2-51 和賀ビル2階			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	8名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	令和7年3月17日	評価結果 市町村受理日	令和7年5月20日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

若いスタッフから年配のスタッフによる介護により、より一層家庭的な雰囲気の中、それぞれの利用者様が、安心穏やかに生活を送れるよう、個々に必要とされるケアに注力しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和7年3月27日	評価機関 評価決定日	令和7年4月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、NPO法人「優游の朋」の経営です。同法人は、グループホームを横須賀市と三浦市にて2事業所運営しています。ここグループホーム「ひなたぼっこ」は2002年2月に横須賀市長沢で開設し、2019年2月に津久井に移転しました。場所は京急津久井浜駅から徒歩10分の4階建てのビルにあり1ユニット8人のグループホームです。2階は厨房、リビング兼食堂、浴室などの共用空間で3・4階にそれぞれ4居室あり、すべての居室が海の見える側にあり、日当たりの良い居室です。

●この法人の理念の一つでもある「利用者の生活能力を把握してそれぞれの利用者に見合った自立した生活への支援」を実施しています。例えば自立度の高い利用者同士で買い物に出掛けてもらったりしています。また日中は、ほとんどの利用者が前面に津久井浜を見渡せる明るいリビングに集合し、食事の際には、お手伝いをしたり、自由な時間には、利用者同士で談笑したり、テレビを鑑賞したり、職員と共に和やかに家庭的な雰囲気です暮らしています。

●長沢から移転後コロナ禍に見舞われ、地域との交流が一時中断していましたが、令和6年から本格的に復活し、長沢時代のボランティアグループ3-4人に毎月1回、来ていただき利用者との話し相手になったり、歌を歌ったり楽しい時間を過ごしています。地元町内会のお祭りのビンゴ大会に利用者と共に出席したり、町内会の掃除や草取りに行くなど町内会活動にも参加できるようになりました。利用者の散歩の際には、近隣の保育園の園児との交流があったり、地元の農家から野菜をいただくなど地域との交流が活発化しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ひなたぼっこ
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症介護に関する地域の社会資源として事業運営すべく、自治体、民生委員、福祉推進員他、地域との関係を密にしつつ、ご利用者の安心と安全な生活を提供するための理念を努めている。	理念の一つである「利用者一人ひとりの生活能力を把握して個々の能力に応じた自立した生活支援を行う」に基づき、利用者同士での買い物や依頼したり、食事の下ごしらえや後片付けをお願いします。日中は、ほとんどの利用者がリビングに集まり、利用者と職員が和やかに過ごされています。		今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として、運営推進会議以外にも様々な交流に努めている。	地元町内会に加入し、回覧板が回ってきます。輪番制でゴミ当番も行っています。コロナ禍で中断していた町内会行事も今年度から復活し、盆踊りやビンゴ大会に参加したりしています。町内会活動の掃除や草取りにも参加しています。長沢時代のボランティアグループにも毎月来ていただいています。		今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事や、町内会を通じ、認知症介護についての理解を深めていただけるように努めている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	構成員の皆様には、コロナ禍で中々開催できなかった運営推進会議も段々と開催できるようになり、意見、感想を聞き、サービスの向上に努めている。	コロナ禍で対面での開催ができなかった運営推進会議も今年度から年6回対面で開催できるようになりました。町内会会長・民生委員・包括支援センター・市職員等のメンバーへこの事業所の状況を説明し、メンバーの方々からの意見や助言などをいただき、運営上の参考にしています。		今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	横須賀市で行っていたグループホームの連絡協議会が無くなり、定期的な連絡を取り合うことが無くなった。	横須賀市職員には、運営推進会議に参加いただいています。コロナが沈静化したことにより、コロナでの市とのやり取りは少なくなりましたが、必要な際には、連絡を取り合っています。横須賀市のグループホーム連絡協議会が解散となり、定期的に他のグループホームと連絡を取り合うことが少なくなりました。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初から身体拘束は行っておらず、身体拘束についての弊害等を全ての職員が理解し、定期的に研修を行っている。	開設当初から身体拘束は行っておらず、身体拘束の弊害等をすべての職員が理解し、定期的に関行される身体拘束適正化委員会でも事例を挙げて研修を実施し、身体拘束によって起こりうる弊害や影響を正しく理解するように取り組んでいます。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に該当することが何なのかを職員全員が理解している。研修では基本的な部分を繰り返し学んでいる。	虐待に関する事例なども身体拘束適正化委員会の開催時に同時に虐待防止委員会も開催し、虐待に該当することが何なのかを職員全員が理解し、共通の認識を持っています。研修では、基本的な部分を繰り返し学び、スピーチロックなど起こしやすい事例などを絶えず意識して職員は行動しています。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解と活用法については外部の研修への参加や、職場内の研修を行い、必要であれば活用につなぐための相談窓口等も把握している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分に時間をかけ説明を行い、意見をいただいている。説明の途中でも質問が無いか確認をしながら進めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は、日常的に誰もが受ける事の出来る関係ができています。ご家族においては月末の報告や面会、電話、メール等を通じて双方向でご利用様への考えや思い等が行き来する関係にあり、得られた情報を反映することに努めている。	毎日の個人記録を1ヶ月分纏めた報告書を月末に家族へ送り、利用者の状況を伝えています。面会に来られる家族も多く、電話やメールを通じて家族との連絡を取り合っています。家族からの意見や要望は、職員誰でも受けることができる関係性を維持しています。家族からの要望は、可能な限り応えています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例ミーティング等により、様々な意見交換を行っている。	法人の代表も業務に入ることもあり、日頃から代表や管理者と職員間のコミュニケーションは取れており、意見交換もなされています。職員間の情報共有は、連絡ノートや月例のミーティングで行われています。職員からの意見や要望は、職員間で検討の上、良い提案は業務に取り入れています。	今後の継続	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護業界全体としては、非常に厳しい状況が続いているが、法人として可能な限り可能な範囲で対応している。	職歴の長い職員が多く、お互いに気心が通じ合っていることで、希望休はお互いに調整をすることにより、希望通りに取れるよう対応しています。介護業界全体としては、厳しい状況が続いていますが、職員が働きやすい職場環境を維持し、求人は口コミで確保できるので、人手不足にはなっていません。	今後の継続	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのスキルの把握に努め、個々に必要とされる知識や技術をOJTを通じて身に付けてもらえるよう働きかけている。	職員一人ひとりのスキルアップを目指して今年度は、研修専門業者と契約し、毎月研修項目を設定しe-ラーニング方式で全職員が受講しました。職員からこの研修方式への意見を聴取し、来年度の研修を検討する予定です。介護技術に関してはベテラン職員が多く、新入職員には、現場でのOJTを大切にしています。	今後の継続	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	連絡協議会が無くなったことにより、それに代わるネットワークの構築を図りつつ、情報交換のできる勉強会等で意見交換を行っている。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り寄り添い、信頼関係を作る事により、困りごと、不安な事、要望について、解決する方向性を共に考え、本人の安心に繋げる関わりを実践している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居時、入居後1週間、1カ月を目安に双方で連絡を取り合って話をする機会を持つように心がけている。その結果、ご家族との関係を深めることの足掛かりとなる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用前までの生活とは環境が異なる事から、必要とする支援が明らかに変化する事も多く、実際の生活の中から「その時」に必要な支援を見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフが一方的に介護を提供する立場にならないように、日頃からゆったりと係ることのできる環境を確保し、生活の営みでご利用者にできることは見守りながら感謝の気持ちを伝えている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月送らせて頂いている生活記録を通じ、ご利用の様子を伝えつつ、必要に応じて連絡を取り合える関係性が出来上がっており、ご家族との協力関係は良好である。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設が長沢になった当時からご利用者が楽しみにしているボランティア訪問は、ご厚意により継続して津久井まで来ていただく事が出来、途中コロナで途切れたものの、また今も続けて来て下さり、馴染みの関係が続いている。	長沢時代から利用者が楽しみにしているボランティアグループの訪問がコロナ禍で中断していましたが、今年度から再開し馴染みの関係が復活しています。ドライブがてら実家に立ち寄り、墓参りに行く利用者もいます。外国にいる娘さんからXmasカードが届いたり、お孫さんから年賀状が来たりしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がご利用者同士の共通点を見つけて、話題の提案をすることにより、スムーズにご利用者同士の関係性を作っている。孤立してしまうご利用者には、スタッフが傍らで過ごすことで、孤立しないようコミュニケーション機会を作る対応を心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、ご家族が尋ねて来て下さり、十年以上も関係性が続いている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや、その方なりの価値観を尊重している。ご本人、ご家族の意向に沿えるよう、言葉だけではなく表情からも察知するように務め、支援している。	利用者一人ひとりの思いやその方なりの価値観を尊重し、お誕生日には、好きな昼食のリクエストを聞き、オムライス・お寿司・ハンバーガー・ケーキなどの要望に応じています。言葉の不自由な方には、表情や仕草から本人の意向を察知するよう取り組んでいます。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のあらゆる情報を収集し、より深く一人ひとりを把握できるよう努めている。入居後の関りの中からも得られるものも多く集めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	グループホームでの生活がご自宅で過ごされていた一日の流れに沿うよう、ご本人の親身の状況に合わせた必要な援助を見極めるよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に職員は各利用者の体調や細かな変化を把握し、話し合いを行い、ご家族や、かかりつけ医に相談し、利用者がより良く生活できるよう、介護計画を作成している。	常に職員は、各利用者の体調や細かな変化を把握し、課題が生じた場合には、ケアカンファレンスにて話し合い、対応策を決め、全職員が情報を共有し、対処しています。介護計画書は、何もなければ6ヶ月毎に見直しを基本とし、見直し時には、家族からの意見も聴くようにしています。必要に応じて、かかりつけ医にも相談して作成しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ間だけでなく、家族とも共有できる一人ひとりのケアの内容や生活の様子、ご本人の状態等の記載をし、変化していく中で生活上での課題となるものが何であるかを把握できるよう心がけ介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活全般に亘って、状況により生じる様々なニーズに対し、あらゆる面で工夫したり、柔軟に対応するよう心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、町内会、ボランティア、地域包括、消防、警察、近隣住民等、様々な方の協力を得て、安心して安全な暮らしを確保できるよう努めている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の説明で決めていただいている。適切な医療が受けられることが前提にある事から、専門医による定期的な診察が必要な方については、かかりつけ医からの紹介により他医療機関にかかる事もあり、歯科については必要に応じて往診の準備がある。	入居時に、協力医の説明を行ったうえで、主治医を決めてもらうようにしています。現在、協力医は2ヶ所あり、定期的に往診してもらっています。歯科医も毎月2回往診に来て、希望者のみ受診しています。看護師は週1,2回来て、利用者の健康管理を行っています。訪問マッサージを利用している方もいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護スタッフの日頃の健康管理上の気付きを申し送りノートに書き留めたり、緊急度の高い事案については速やかに看護師に連絡を取り、対応する事が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	小さな事でも医療機関と相談しあえる関係が整っており、早期退院等のご家族の希望にも親身になって相談に応じてもらえる関係が整っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から話し合いを重ねながら、状況の変化に伴い方向性や具体的なケア内容を検討し、納得のいく方法を選択している。看取り介護の要望に対しては、ご本人、ご家族のケア、職員のケア等、丁寧に実施している。	入居時に重度化の指針を説明しています。入居時から話し合いを重ね、重度化した場合には状況の変化に伴い、介護の方向性や具体的な介護内容を検討し、納得の行く方法を選択しています。看取り介護の要望があった場合には、利用者本人・家族のケア・職員のケア等も考慮して丁寧な対応を心がけています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応については、スタッフの多くが身に付けており、定期的な緊急時の対応についてのおさらいと見直しなども行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	台風等の暴風や水害については、自施設での待機が可能となったが、大規模な火災や地震に関しては避難が必要であり、その方法については職員間で理解している。	津久井浜がすぐ近くで台風の暴風や水害の影響が懸念されますが、建物は4階建ての鉄筋コンクリートの造りで、屋上も使えることから垂直避難で対応すると決めています。火災や地震に関しては、年2回の火災通報訓練を行っています。備蓄品は食糧や水を準備しています。近隣の住民との防災協力が今後の課題と認識しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職業倫理に照らし合わせて、我々の職種に求められている行動規範を振り返り確認する事を行い、日頃から誇りやプライバシーが損なわれることがないように心がけている。	職歴の長い職員が多く、利用者とは一般家庭のような打ち解けた関係を維持しています。それだけに職業倫理に照らし合わせた介護の職種に求められる行動規範を振り返り確認することを行い、慣れによる言動や行動が利用者の誇りやプライバシーを損なうことにならないよう心掛けています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員がそれぞれ利用者各々からの希望や要望を受け止める事が出来るように努め、ご本人が決定したことについては、全職員がサポートできる体制をとっている。	/		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いや考えに耳を傾け、表情も含め希望を受け止めたり、察知するような対応をしている。業務優先ではなくパーソンセンタードケアの考えに基づいて、日々の暮らしを支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性、こだわり、好み等を大切に希望に沿って、季節や場面ごとのおしゃれも楽しんでいただけるようお手伝いをしている。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	居間は、調理の音や香りが漂う位置にあり、下ごしらえや食事の準備、後片付けをしてもらっている。メニューに関しても希望をきいたりしている。	リビングからキッチンを覗くこともでき、音や香りで食欲が掻き立てられるような造りになっています。一般家庭と同じように、その日のメニューなども利用者と相談しながら食材の在庫を見ながら決めて、職員が調理しています。時には、行事食や誕生日食などを混ぜて食事を楽しんでいただけるようにしています。できる方には、下ごしらえや食事の準備、後片付けをしてもらうようにして、残存能力の維持につなげています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事の提供に努めている。時間や回数にこだわらず、ご本人の体調、力量、ペースや習慣に合わせることも配慮している。水分量についてはモニタリングしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ADLと精神状態を考慮し、朝晩2回行っている。利用者によっては毎食後行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄能力とパターンを把握した上で、できる限りトイレでの自然排泄を促し、オムツ使用の方にも排泄のタイミングを把握し、オムツ交換を行う対応をしている。	排泄の記録を個人記録に載せ、各利用者の排泄能力やパターンを把握した上で、できる限りトイレ（移動の困難な方にはポータブルトイレを利用して）での排泄を心掛けています。オムツ使用の方にも排泄のタイミングを把握し、おむつ交換を行うなどの配慮もなされています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ服薬に頼らず、自然排便ができるよう飲み物や食べ物の工夫をしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	定期的に入浴できるよう努めているが、ご本人の体調や気分によって時間や日程の調整を行っている。	2階の共用空間にある浴室は、海を見渡せる最高の眺望になっており、3,4人入れる広い浴槽で循環式でいつでも入浴できる設備になっています。週2回を基本として利用者の体調や気分により日程や入浴時間の調整を行い、気分良く入浴してもらえるよう取り組んでいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて、二中の休憩は勿論のこと、夜間に関しても、睡眠の妨げにならないよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者に処方されている薬について使用目的、用法、作用等理解している。体調の変化を観察し、往診時に適宜、経過報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの個性や強みに合わせ支援している。家事への参加、散歩や買い物、歌番組のTV鑑賞、読書、利用者間でのおしゃべり等、支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等、個別の要望に応じられるよう、業務の調整を行い、気候、天候に配慮しながら、その方の体調や体力にあった外出支援を行っている。	自立度の高い利用者同士で買い物に行ってもらったり、車の往来の少ない小道や、すぐ前にある県営団地群の公園等に散歩しています。時には、車でドライブにお連れすることもあります。各居室には海を眺望できるベランダがあるので、外出の難しい方は、ベランダで外気浴を行っています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の能力とご家族の希望を踏まえ対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<p>昨年、ほとんどの利用者さんは携帯電話を持って入所されており、家族とメールでのやり取りをしている方もいて、時代が変わってきたことに驚かされている。希望があれば、携帯電話の使用法と支援し、施設の電話使用も可能である。手紙のやり取りも希望があれば支援する。</p>			
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>広い居間兼食堂からは東京湾を航海する船や日当たりの良い窓辺ではひなたぼっこができ、のんびりと時間を感じることができる。浴室のお風呂も大きく、窓からは柔らかな日差しが差し込み、毎日掃除もおこなっている。</p>	<p>安全かつ安心して過ごしていただけるよう、動線の確保と整理整頓を意識し、室温・湿度は職員によって管理されています。広くて明るいリビング兼食堂からは東京湾を航行する船を見渡せ、日当たりも良くひなたぼっこもできます。日中はリビングで職員も混じえ、テレビやYouTubeの昭和歌謡を見ながらのんびりと過ごしている利用者が多く、家庭的な雰囲気が醸し出されています。</p>		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>居間の三か所にソファを置き、窓辺で本を読みながらウトウトされたり、利用者同士と一緒に座りながらおしゃべりしたり、思い思いに過ごしている。</p>			
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>使い慣れた愛用の家具や寝具を持ち込んで頂いている。人によっては仏様を持って来ておられる。</p>	<p>居室は、3階と4階にそれぞれ4室ずつあり、すべての部屋が南向きで海に面しています。どの部屋も明るく、利用者は使い慣れた愛用の家具や備品を持ち込んでいます。お位牌や家族の写真を飾っている方もいます。利用者は、それぞれの好みに合わせた居心地の良い空間を作っています。</p>		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>利用者個々に持つ力に応じ、生活動線に必要な援助を行っている。危険回避のために手立てを施した上でご自身の「できる事」「わかること」を活かしていただき、できる範囲での自立生活を実現している。</p>			

# 目 標 達 成 計 画

事業所 グループホーム ひなたぼっこ

作成日 令和7年4月14日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	13	新しいスタッフの採用により、スタッフの育成が早急に必要状況となっている。	経験のないスタッフや、経験の少ないスタッフの育成。	ホーム内での技術や知識の習得。それと並行して、外部での研修や資格取得を支援する。	1年間
2	2	コロナによって築けなかった地域との関係性。	より一層の地域行事への参加や、町内や保育園との関わりを持ち、地域社会の一員として過ごしていただく。	利用者様をできるかぎり外に出ていただき、近隣の方々との会話や、近くの保育園の園児との関わりからオープンなホームを取り戻す。	1年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。